

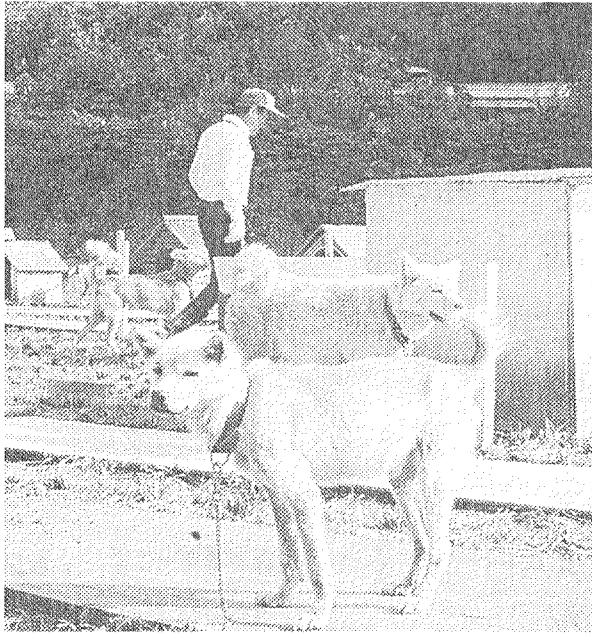
捨て犬飼育のお年寄り倒れて…

放置40頭、奈良県が収容

愛護団体が要請

治療後、引き取り先探し

奈良県天理市の山間部の民家で、満屋にエサをもらえられないような劣悪な環境で飼われていた犬約四十頭が十四日までに、奈良県保健環境部などに保護され、新設予定の収容施設で治療を受けることになった。捨て犬を預かり続けた飼い主のお年寄りが、病気で飼育できなくなり、動物愛護団体の要請で県が対応に乗り出した。行政が収容施設の設置まで施すのは全国でも珍しい。県では、犬の皮膚病などの治療が済み次第、引き取り先を探すことにしている。ペットブームの陰で、身勝手な飼い主たちの犠牲になった犬たちの姿に、関係者から憤りの声が上がっている。



保護されて治療を待つ犬(奈良県・天理市で)

このお年寄りは無職の男性(71)で、十五年間、周囲に民家のない同市東部の山奥の借地(約二百平方メートル)にプレハブ小屋を建て、犬七頭を飼い始めた。その後、いろいろな理由で犬が飼えなくなった人たちが引き取りを始め、一時は約三百五十頭にまでふくれあがったとい

う。犬の放牧収容能力を大幅に超えたため、衛生面の問題も生じた。県の再三の改善指導にもかかわらず、放置状態が続いた。昨年、同市内に収容施設を建設、治療を計画して、治療が終わり、引き取り先をまだ見つけられなかった犬約四十頭、狭いおりにエサ詰めの状態に。汚物処理も不十分で、犬畜で皮膚病がまん延する事態にまで陥った。

こうした惨状を知った動物愛護団体「アーク」(大阪府能勢町、代表者江里サベス・ヨリバーさん)らが、救済活動を開始。今年六月ごろから収容各国の愛護団体などに、現状を知らせる手紙約九千通を郵送。県には改善策を求める抗議文約四百通が各国の市民から届いた。

こうした声に応じられる形で、県保健環境部などは今月上旬、十一の阿見、皮膚病で症状の重

い五頭を動物病院に入院させたほか、三十頭定着し、小屋に近いきき地に移すなど保護施設を設けた。県は十月までに、同市内に収容施設を建設、治療を計画して、治療が終わり、引き取り先をまだ見つけられなかった犬約四十頭、狭いおりにエサ詰めの状態に。汚物処理も不十分で、犬畜で皮膚病がまん延する事態にまで陥った。

こうした惨状を知った動物愛護団体「アーク」(大阪府能勢町、代表者江里サベス・ヨリバーさん)らが、救済活動を開始。今年六月ごろから収容各国の愛護団体などに、現状を知らせる手紙約九千通を郵送。県には改善策を求める抗議文約四百通が各国の市民から届いた。

こうした声に応じられる形で、県保健環境部などは今月上旬、十一の阿見、皮膚病で症状の重

大型船割り出し急ぐ

御前崎沖 漁船衝突 不明5人の搜索続く

静岡県御前崎沖の遠州灘で十一日、漁船「万盛丸」が大型船と衝突、転覆し、乗っていた釣

人と沈没した釣りの船の残骸の捜索に全力を挙げる一方、衝突した大型船の割り出しを急いで